ＲＩ長期計画は会員減少を止めることができるのか？

国際ロータリー第2510地区
2011－2012年度 ガバナー **熊 澤 隆 樹**（小樽RC）

ＲＩ理事会は、ＲＩが世界社会から高いレベルの認識を確保し、維持するためには長期計画が必須であることを確定し、長期計画委員会を設置し、2009年11月には３つの目標を採択しました。ご存知のように①クラブのサポートと強化　②人道的奉仕の重点化と増加　③公共イメージと認知度の向上であります。これらの方向づけは、日本以外で十分にロータリーの魅力を訴える力となっていることは、推察できます。一方、日本では、すでに社会的に成功された方のエリートの集まりで始まった東京ロータリークラブと、その後各地で作られたロータリークラブのように奉仕団体としてより、親睦団体の色彩の強いものであったと思われます。そこで、近年のように奉仕団体としての使命がいわれるようになると、社会状況の悪化と共に、ロータリーのひきつける力がより大きな勢いで減少し、相乗的な結果を招いていると思えてなりません。それにしても、ロータリー先進国である日本の会員数の減少は驚くばかりです。しかし、ロータリーの発祥の原点を振り返ってみて、この大きな組織となって発展したロータリーはそんな弱いものではないはずです。

シカゴの四人の仲間の友人からスタート、特に中心となったポール・ハリスの心の中にあった思いは、その自伝の言葉の中にいろいろ見出せるが、例会に参加することが幼な心に戻れる喜び、そしてそこで生まれる友愛、裏切られることのない信頼、それは私たちが今でも感じることが出来る貴いものです。とするならば、社会情勢の厳しい中でこそ、よりその価値が増すものであり、そういった仲間を増やすことに私たちは意義を認めるべきではないでしょうか。

私は、バネルジーＲＩ会長の掲げたテーマ「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」を実践するにあたり、私たち一人ひとりの持つ**奉仕の理想（thoughtfulness of others, helpfulness to others,** 初代事務総長を32年間されたチェスリー・ペリーの言葉）「思いやり」と「助け合い」を自分の中に見出した時、少しでも多くの人にこの思いを持つ仲間が厳しい社会環境であればあるほど増えてほしいと思うはずです。

ロータリアンが高い倫理観を持つ仲間の集団となった時、おのずから評価されることになるでしょう。私も同じ職業仲間が他の人々から高い倫理観を持つ職業人の集まりであると認めてもらいたいという思いで、同じ歯科医師をこれまで四名入会してもらいました。奉仕の理想の実践者である彼らとの仕事上のトラブルは、一度もありませんでした。

会員の皆さんが、業界のリーダーの後継者を是非とも仲間に誘ってあげて下さい。倍増も夢でありません。

会員増強月間にあたり一言！